カナリヤ通信

第７号

「カナリヤ通信」では、さまざまな考え方をもった女性が、社会の中で楽しく、それでいて女性らしく声を出して、人生を楽しみながら働く姿を表現していきます。

～働き方について考え、気づく～

理想のトイレ

次回は6月8日です。4団体 女性部会トップの座談会を予定しています

現場

長谷工コーポレーション
八千代緑が丘Ａ街区新築工事（千葉県）

休憩スペース。トイレと着替えスペース兼ロッカーが奥に配置されている。エアコンも完備されているため、暑さ寒さ知らずで快適だ

作業所が立ち上がった当初の仮設トイレは、男性用（大・小）と女性用が並んでいたため、男性が立っている姿も見えるし、ちょっとした物音も聞かれてしまう。こういう状況を気にするのは女性だけなのかと思いがちだが、案外、男性も気を使うそう。

そこで、女性専用休憩室を別棟に設置。現在、作業員は３００人程度、その中で常時働いている女性はわずか３人。しかし服部卓士所長は、「女性がいる限り環境を整えるのは当然です」と語る。同社では全ての現場で女性専用トイレ（物件規模によって女性専用休憩室）を準備する方針だという。

電車で通勤している左官工の浅野優さん（右）は、プチ着替えをして帰るそう。鉄筋写真の穴田舞さん（中央）は「待機時間は休憩室で過ごす」。昔はトイレで着替えていたという電気工の稲垣昌子さんは「今の作業所は快適です」

案内された女性専用スペースには男子禁制マークがかわいく明記。入り口には暗証番号付きのカギが設置されているので間違って男性が入ってくる心配はない。中はそれほど広くはないものの、トイレや着替え、休憩には十分なスペースが確保されている。更衣室内にロッカーがあるので着替えのストックを置いておくこともできる。今後、現場は仕上げの段階に入り女性の作業員が増えることから、この休憩室が活躍することになりそうだ。

第７号では「理想のトイレ」を取り上げます。オフィスと現場それぞれの先進的な取り組みを紹介するとともに、第６号での“アンケートをもとに編集部が考える”理想のトイレ”を描いてみました。一方、取材を重ねると「古い」「汚い」「男女兼用」の場合もあることから、専門家は「商業施設や最新のオフィスビルはより良くなっているので、その分、格差が広がっている」と指摘しています。読者から“会社選びの判断材料”という意見が出るほど重要な場所。今一度トイレについて考えてみる良い機会かもしれません。

オフィス

森ビル
六本木ヒルズ森タワー（東京都港区）

岩根担当課長

作る側も使う側も男性が主だったオフィスのトイレ。制服の減少から更衣室が消え、オフィスのトイレに求められる役割も変わりつつある。六本木ヒルズ森タワーには、森ビルが働く女性の声をもとに改修したトイレがある。担当したのは社内横断の検討組織「女性も働きやすい街づくり検討会」。「最初の大きなテーマが理想のトイレだった」と森ビルの岩根奈美営業本部オフィス事業推進部企画グループ担当課長は振り返る。

検討にあたり、トイレで何をしているかを女性社員にヒアリング。手洗いなどの基本行為のほか、歯磨き、化粧直し、着替え、しみ抜きなど幅広いしみを重視する回答が目立った。他社の事例も交えて検討を重ね、身だしなみを整えるドレッシングエリアを新設。色温度や壁の色調を変えてオフィスと同等にし、“オフィスで見られている姿”がよくわかる空間を実現。フィッティングボードはトイレがある。担当したのは社内横断の検討組織「女性も働きやすい街づくり検討会」。「最初の大きなテーマが理想のトイレだった」と森ビルの岩根奈美営業本部オフィス事業推進部企画グループ担当課長は振り返る。

カウンター下に荷物置きを設置

着替えや休憩に使えるベンチ付きブース

ドレッシングエリアを新設

好き嫌いが分かれたため採用せず、ストッキングの履き替えや休憩用のベンチを備えたブースを設置した。

男性社員の意見も積極的に取り入れた。「手洗い時に書類が濡れる」という意見は、洗面カウンター下に荷物置き場を設ける案に結びついた。限られた空間で上司部下が顔を合わせることは、オフィスのトイレにはつきもの。男性トイレ内に間仕切壁を設置することで、若手男性社員への細やかな気配りを実現した。

岩根担当課長は「コンパクトなスペースでいかに快適な空間を創出できるか。まだ検討の余地がある」と先を見据える。

以前の“困った”　今の“ここがいい”

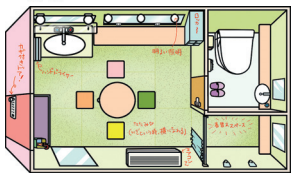
以前の“困った”	今の“ここがいい”
男女兼用トイレでの着替え	冷暖房完備の女性専用休憩室
トイレに行く時間を男性とずらす	安心して着替えができる
	温水洗浄便座はありがたい

理想の女性専用休憩室！

浦和駒場プロジェクトの作業所では、長谷工の女性所員が休憩室の内装をコーディネート。今後の利用者の増加を見据えスペースと設備を充実。かつての現場とは違い、おしゃれ女子にも満足のいく休憩室（専用トイレ、化粧スペースを含む）が整備されている

読者116人のアンケートをもとに 編集部が考える 理想のトイレ

現場



⇒詳しくはwebで

オフィス

オフィスは、人数に応じて個室数を増減する。男女別だと気を遣わなくていいです。洗面と身だしなみを整えるスペースは別の方がいいですね。また洗面の下に書類など物がおけるスペースがあるととても便利です

現場は、休憩施設の中にトイレがあるといいですね。畳が敷いてあると体調が悪いときでも気軽に横になれるので職場の安全管理にとっても好都合でしょう。また、帰宅するときに身だしなみを整えるスペースがあるとグッド！

リフレッシュできる貴重な空間

設計事務所ゴンドラ

街や職場の中で、私たちが唯一ほっとできる空間――。それがトイレであり、究極のオアシスといえます。商業施設や駅、オフィスビルでも、トイレは「ちょっと行きたくなる場所」へと様変わりしています。

今、トイレ革命の第３期に入りました。さまざまな空間と一体化し利用者のニーズにあったゆとりのスペースを視点に設計されていて、「ここはトイレ？」と思うくらい、素敵な空間になったと感じている人も多いはずです。私が設計したカラフルタウン岐阜では、子ども用のトイレ施設を設け、そこでお母さんも休憩できるスペースをつくりました。夕方になると保育園帰りらしい親子がやってきて、一息ついているお母さんの顔が印象的でした。そういった場所こそが今のトイレに求められているのだと思います。

残念なことに、トイレ格差は広がっています。素晴らしいトイレが増え続けても、小さな事務所ビルでは男女兼用というケースもあり、女性だけではなく男性も不快に感じていると思います。気持ちをリフレッシュするためにも大切な場所ですから、経営者やビルオーナーも改修を考えてみてはいかがでしょうか。良いトイレになれば、会社の評価が上がるし、生産性も向上するかもしれません。

ウィラ大森ビルのトイレは工夫がいっぱい！左手前のカウンターは化粧や姿見など目的に応じて高さを３段階に分けている

日本トイレ協会
副会長
設計事務所ゴンドラ代表
小林純子氏

☆私にとっての理想のトイレは

においなど物理的な不快要因がなく思いっきり深呼吸できる場所、ほっとできる癒しの空間。また、化粧や身だしなみを整える場所であり、自分の姿を映し出し顧みる場所であるとも思います。これは、建築現場でも同じことが言えるのではないでしょうか。

第６号に引き続き登場！
日本トイレ研究所代表理事　加藤 篤さん
☆私にとっての理想のトイレは
安心できて静かで落ち着けるトイレ。無心になれる空間が理想です。

未来は、トイレでメディカルチェックができる。今日はいいぞ！というサインが出たら、その日はポジティブに仕事を進められると思います。

帝人フロンティア

用途に合わせて繊維を選べます

独自開発の繊維で作ったユニフォーム

そろそろ暑さが本格的になってくるころですね。強烈な日差しに身も心もへとへとになってしまいそうです。

そこで今回ご紹介するのが、帝人フロンティアが独自に開発した繊維で作ったユニフォーム。建築・土木などの現場をはじめオフィスの制服まで用途に合わせて繊維を選ぶことができるのです。

例えば、特殊なポリエステル繊維を採用することで屋外作業での日差しや熱射による暑さを軽減するので熱中症対策にも一役です。また、ソフトな風合い、ストレッチ性、吸汗・速乾など暑さだけでなく着用時の快適性も追求しています。さらに、脇汗など「汗染みが気になる」という女子も多いはず。そういったお悩みにも同社の繊維を使えば即解決。汗が表面に浮き出てこない上、はりつき、べたつき感がないので汗をかいていることさえ周囲には気づかれません。もちろん、消臭・抗菌効果も抜群なので安心です。大手アパレルメーカーやスポーツメーカーともコラボレーションしているというだけあって、ニーズにあった繊維を数多くラインナップ。女性目線で夏を乗り切れる同社繊維を用いたユニフォームを検討してみてはいかがですか。もちろん男性にもお勧めです。

■「美ＪＩＮ革命　洗顔すっきりキューブ」を抽選で10名様にプレゼント！

暑くなってくると洗顔も大切ですよね。そこで登場するのが「美ＪＩＮ革命　洗顔すっきりキューブ」。お手持ちの洗顔料を付属の泡立てネットで泡立て、小鼻などざらつきが気になる部分をくるくるとなでるだけで古い角質や毛穴の汚れをからめとり化粧ののりを良くする優れもの。糸と生地は純国産だから安心です。使ってみたい！と思う方は、住所、氏名、電話番号を明記の上、編集部にファクス（03－3259－8730）、またはメールでご応募下さい。締切は５月25日（水）です。

■帝人フロンティア株式会社
帝人グループの製品事業を牽引する帝人フロンティアは、「価値を創造するグローバルコンバーター」として、衣料繊維と産業資材の両分野において先端技術と独自開発素材を基盤に、帝人グループ内の素材事業と製品事業を組み合わせた融合ビジネスをグローバル規模で展開している。

編集部放談

A　トイレについて２回にわたって企画したけれど、奥が深いね。商業施設や駅などは本当にきれいになって、気兼ねなく行けるようになったよね

B　第６回のアンケートによると、「トイレは居室」「リフレッシュする場所」としてのざわざわ行く場もあるみたいだし、頭を整理するときに行くこともあるなぁ

A　トイレに関しての研究が進んで、アイデア満載の快適な空間になりつつある

B　すべてを実現するのは無理だと思うので、取捨選択しながらより良いトイレになればいいね　問題は現場。オフィスもそうだけれど「トイレ格差」が広がっているしいね

C　男女兼用もあるし、男女別でも男性の立ち姿が見えて、行くのをためらう女性が多いみたい。使い方が汚い男性も多いらしいよ

B　男性と女性の「きれい」に対する感じ方が違うからかもしれない

A　でも男性でもデリケートな人がいるよ。例えば、洋式が嫌だから和式のトイレを探すなんてこともあるんだって

C　オフィスでも男女兼用のところがあるよ。でも、オフィスの場合、使いながら改修しなくてはいけないから、段取りが難しくついつい改修は後回しになってしまうんだって

A　まだまだ、理想のトイレに近づくには難しい事情もありそうね

連絡先はこちら→
■お問い合わせ：株式会社日刊建設通信新聞社　カナリヤ通信編集部　03－3259－8711
■ご意見・ご感想、プレゼントの応募は　canaria@kensetsunews.comまでお寄せください。

「カナリヤ通信」は商標登録出願中です：商願2015－118346